

同窓生シリーズ

⑳



旧18回生 渡辺五郎氏

昭和19年	旧制六中(現新宿)卒業
昭和25年	東京大学経済学部卒業
同年	農林省入省
	農林水産大臣官房長・食糧庁長官
	農林水産事務次官などを歴任
昭和61年	農林水産事務次官を歴任
平成2年	日本中央競馬会理事長

緑の芝生、若い女性ファン、と、近頃、クリンなイメージで人気のある競馬界―その責任者でいらつしやる、日本中央競馬会理事長の渡辺五郎氏を新宿の事務所にお訪ねしました。ぎつしり詰まったスケジュールの中、母校のPTA新聞の取材に快く応じて下さいました。終始、にこやかに、淡々とお話されるので、緊張気味だった取材陣もほっとし、たのしいひとときとなりました。

先生方も、時代と一緒

に走っている先生、勉学

に重きをおく先生など、

いろいろでした。

抑圧された日々ではあ

りましたが、時には、皆

でストライキを起こして

いましたから。私など、

養わねばならなくなつて

学業を断念した人も沢山

ありましたから。私など、

運に左右されることも多

くありましたね。私の友

人の中にも、親がずっと

学資を出してくれるはず

だったのに、逆に家族を

養わねばならなくなつて

教練をさぼり、あとで並ばされて怒られたり、当時禁止されていた映画をこっそり見に行つたり、六中の前のタバコ屋の娘さんをはからかつて問題になるといった話もあったりして、それなりに、自分達の世界や楽しみをくつていたような気がします。

六中を卒業した後は、旧制の二高を経て東大に進みましたが、生きていくのに必死な日々。勉強どころか、アルバイトに明け暮れる生活でした。戦後の混乱期、社会が大きく変わる中で、運・不運に左右されることも多くありましたね。私の友人の中にも、親がずっと学資を出してくれるはずだったのに、逆に家族を養わねばならなくなつて学業を断念した人も沢山ありましたから。私など、

就職した昭和二十五年は、朝鮮動乱があり、貿易も再開され、ようやく日本の経済界も動き始めようとしていた頃です。しかし、夢とか理想とか

いつている状態ではなく、必死で職を得たというのが正直な気持ちです。

幸い、農林省へ入ることができました。

安月給なのにインフレがひどく、あつという間に財布が空になる―その上、時々先輩に連れられて麻雀に行き、千円、二千円と収奪(?)されては、がつくりする、というよ

うなこともありましたよ。以来、役人として組織の中で仕事をしてきました。病気がしなかつたからやつてこれたのだと思つています。

現在では中央競馬会理事長として過ごしていますが、全国各地で開催される競馬に顔を出したり、賞状を渡したり、その他いろいろで結構忙しく、休みもなかなか取れない有りさまです。

外国から入ってきた競馬ですが、イギリスやフランスなどでは、貴族の楽しみのような傾向にあるのに対して、日本では誰もが参加できる独自のシステムをとっているのがファンに受け入れられたのでしよう。年々売り上げも伸び、今では世界のトップになつてしま

ました。ことに近頃は、若い世代や女性の間で人気が出てきていますから、より良い環境づくりに心を配っていますよ。

競馬に限らず、日本の経済全体をみましても、今や世界でトップ。東京

の殆んどが焼け跡だったことを思い出すと、よくここまで来たもの、と、しみじみ思いますね。しかし、今までは、他国の手本を見ながら、追いつけ、追い越せで進んできたのに対し、これからは、自国のことはかりでなく他の国々のことも考える全てが初体験の立場なのですから大変なことです。

それにしても、自分の若かった頃を思うにつけ戦後のデモクラシーは素晴らしいものだと思いません。時代は、絶対に後戻りをしてはいけません。自由な世界を歩めることは実に幸せなことです。

学歴社会にとらわれたり軌道から外れては大変、といった、社会的圧迫感のようなものの強いことが気掛かりではあります。若い人達が、もつと自由を考えて個性豊かに生きていってほしいです。

中央競馬会にて

農林省を退いてのち、

若い人々へ

若い人々へ

若い人々へ

世に出た頃

就職した昭和二十五年は、朝鮮動乱があり、貿易も再開され、ようやく日本の経済界も動き始めようとしていた頃です。しかし、夢とか理想とかいつている状態ではなく、必死で職を得たというのが正直な気持ちです。

幸い、農林省へ入ることができました。

安月給なのにインフレがひどく、あつという間に財布が空になる―その上、時々先輩に連れられて麻雀に行き、千円、二千円と収奪(?)されては、がつくりする、というよ

うなこともありましたよ。以来、役人として組織の中で仕事をしてきました。病気がしなかつたからやつてこれたのだと思つています。

現在では中央競馬会理事長として過ごしていますが、全国各地で開催される競馬に顔を出したり、賞状を渡したり、その他いろいろで結構忙しく、休みもなかなか取れない有りさまです。

外国から入ってきた競馬ですが、イギリスやフランスなどでは、貴族の楽しみのような傾向にあるのに対して、日本では誰もが参加できる独自のシステムをとっているのがファンに受け入れられたのでしよう。年々売り上げも伸び、今では世界のトップになつてしま

ました。ことに近頃は、若い世代や女性の間で人気が出てきていますから、より良い環境づくりに心を配っていますよ。

競馬に限らず、日本の経済全体をみましても、今や世界でトップ。東京

の殆んどが焼け跡だったことを思い出すと、よくここまで来たもの、と、しみじみ思いますね。しかし、今までは、他国の手本を見ながら、追いつけ、追い越せで進んできたのに対し、これからは、自国のことはかりでなく他の国々のことも考える全てが初体験の立場なのですから大変なことです。

それにしても、自分の若かった頃を思うにつけ戦後のデモクラシーは素晴らしいものだと思いません。時代は、絶対に後戻りをしてはいけません。自由な世界を歩めることは実に幸せなことです。

学歴社会にとらわれたり軌道から外れては大変、といった、社会的圧迫感のようなものの強いことが気掛かりではあります。若い人達が、もつと自由を考えて個性豊かに生きていってほしいです。

中央競馬会にて

農林省を退いてのち、

若い人々へ

若い人々へ

若い人々へ

若い人々へ

若い人々へ